

「第13回認知症医療介護推進会議」

2024.0909

「認知症基本法施行を受けた取組と課題」



公益社団法人
代表理事

認知症の人と家族の会
鎌田 松代

共生社会の実現を推進するため「認知症基本法」がつくるこれからの社会

- 認知症の人の基本的人権の尊重が明記されています。過去の認知症への取り組みを振りかえっての、大きな前進で基本的な柱です
- 国民が認知症のことを正しく知るための「新しい認知症観」の啓発を行政や企業などとともに大きな輪で進めることができます
- 認知症の人やその家族等が、自分らしく認知症とともに生きるための社会のありようを網羅し示しています。
- 認知症の人や家族等の参画が共生社会の実現に向けてのキーワードで、今までほとんど体験したことがない取り組みです。
- 「治りたい」「働き続けたい（認知症の人も家族も）」への商品・医学や薬の研究・開発や就労・福祉環境の整備がもっと加速度をもって進むと期待しています。

認知症の人と家族の会はこの法律の成立にあたり声明を出しました
2023年6月

「認知症になっても安心して暮らせる社会実現に向けての大きな第一歩」と題し

- ・日本における認知症への基本的な考えが明示され、認知症になっても安心して暮らせ、認知症の人とその家族も認知症とともに自分らしい人生を歩むことができる社会づくりへの大きな一歩を踏み出した法律である。
- ・今後、認知症に関してのさまざまな取り組みが大きく前進すると期待

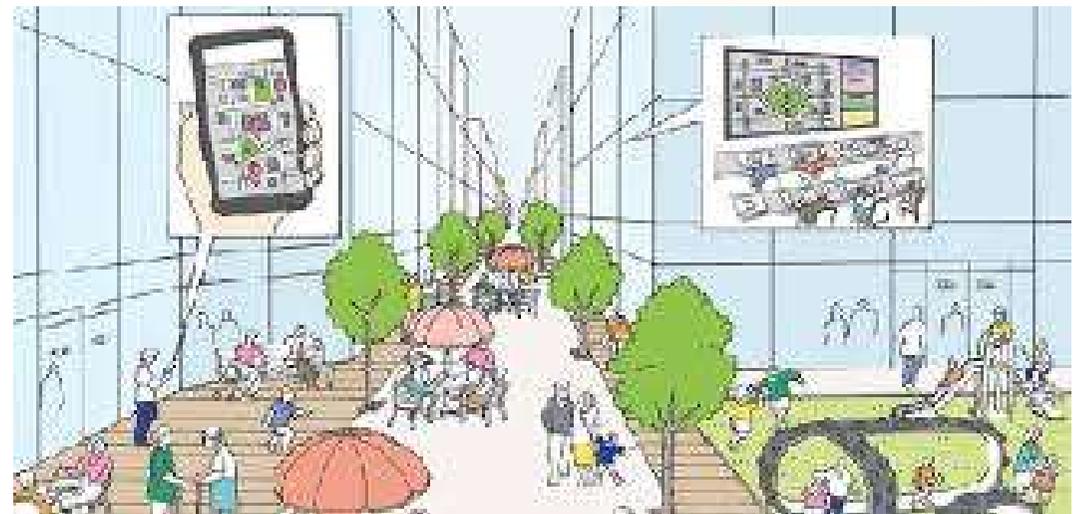


課題

- まだまだ、「認知症の人は何もできない、わからない人」との古い認知症観は根強い
 - 認知症の人のメッセージの発信は、聴いた人々の認識を変容させています。
希望大使など、認知症の人の発信の機会を多くしていくことが重要です。
 - 多くの専門職が「新しい認知症観」等の研修を受講できる機会が増えるのも大事です
-
- 認知症の人や家族等の参画の実行は、言うは易し行うは難し
 - 国の基本計画案には本人ミーティングの場などに行政などの担当者が出向くなどの記載があります。
 - リラックスできる場で、何を話してもいいなどのメッセージがあり、自由な話し合いから真のニーズや思いが出てきます。

認知症の人と家族の会では2022年に「認知症にやさしいまち」の提言を作成しました。

これは共生社会の実現につながる地域づくり（まちづくり）で、具体的なまちのイメージや地域の人々の動きを示しています。



仲間がいるっていいなあ

『認知症の人と家族の会』が提言する「認知症にやさしいまち」

はじめに



世界中で、認知症にやさしいまちづくりに取り組むまちが増えています。認知症の人とともにいる日常が目の前にあります。

そこで「認知症にやさしい」とは、どういうことか、当事者の会である「認知症の人と家族の会」では、認知症の人や介護家族や専門職、支部世話人、サポーターが集まり、「認知症にやさしいまち」に

ついて話し合いまとめました。

話し合いの中で「仲間がいるっていいなあ」という体験談が語られ共感しました。

みなさまのまちでの「認知症にやさしいまちづくり」にこの提言を取り入れていただき、認知症の人と家族をやさしく仲間とし、つながるまちが全国に広がることを願っています。



「家族の会」が考える認知症にやさしいまちとは
仲間がいるまち、つながるまち

- ① 認知症をみんなが正しく理解しているまち《**教育**》
- ② 困っている人がいたら、さりげなく手をさしのべる行動ができるまち《**つながる**》《**関心**》
- ③ 地域みんなが認知症のことを自分ごととして考えているまち《**発信**》
- ④ 認知症を特別扱いしないまち《**啓発**》《**創る**》

つながる 仲間とつながるまち



具体的な内容

- 認知症のことで心配や不安があった時に、「家族の会」等や支援する人々、相談機関などの存在を知り、頼ることができる
- 認知症になったとしても、ひとりの人として認めあえる場につながり続けることができる

当事者の声

- 落ち込んでいたが仲間と出会って「まだまだやれる」と思った
- 出会いが大きい！
- 「認知症だから」という思い込みをもちたくない

啓発 認知症のバリアフリーをめざすまち

具体的な内容

- 認知症の人のできないことをサポートするというより、できることを探す、できる環境を創るといった発想の転換ができる人がいる、場所がある
- 地域で認知症を学ぶ機会がたくさんある（町内会や商店街、企業・事業所等の認知症サポーター養成講座等）
- 認知症情報が共有できるネットワークやアプリケーションがある

当事者の声

- 困っている時に自然と助けてくれる人がいる
- 人としての関わり方として認知症のことを知ってほしい
- 偏見や差別がなくなるといい



発信 思いを発信し、受け止めあえるまち



具体的な内容

- 認知症の人や家族の“言葉にできない心の声”を、聴いてくれる人がいる、場所がある
- 認知症の人の講演や認知症の人の家族の講話などをだれもが聴くことができ、直接、話を聴き交流できる場がある

当事者の声

- 「字が書けない」「名前が言えない」そんな自分が自分でなくなる怖さがある
- 「これからどうなっていくのか」不安がある
- 話が通じないこともあり、何を思っているかわからないときもあるけど、本人がそこにいることを自然に受け止めていきたい



仲間がいるまち つながるまち

創る 一緒にわくわくを創るまち

具体的な内容

- 認知症の人や家族、支援者がともに楽しく一緒に企画・活動する機会がある
- 家族が認知症の人と一緒に安心して参加できる催しの場がある

当事者の声

- お膳立てされたところからの参加でなく、最初から一緒に考え、わくわくすることを楽しみたい
- 地域の介護事業所も巻き込みたい



教育 世代間の垣根を越えて学びあえるまち



具体的な内容

- 小さい頃から、認知症を学ぶ機会がある
- 子どもたちと認知症の人や家族が触れあう場がある（学校の空き教室カフェ等）
- 認知症を学べる認知症コーナーが学校や地域の図書館にある

当事者の声

- 認知症だからと身構えられるのは嫌だ
- できないことが多くなったとき、さげない配慮してほしい

関心 一緒に活動したいと思える人がたくさんいるまち

具体的な内容

- 困っている人にさりげなく手を差し伸べ行動できる人がいる
- 手助けを、無理にしようとせず、間違いや、戸惑いを認めてくれる人がいる

当事者の声

- よく気がつき、見てくれている人がいるから、趣味教室などに安心して参加できる
- やさしい「おせっかい」があるといい
- 認知症の人が周りの人に「認知症です」と、不安なくカミングアウトできる

